

土 師 ダ ム 生 態 湿 地 公 園

建設省 土師ダム管理所 正会員 林 十三夫
建設省 土師ダム管理所 正会員 ○末村 彰宏

1. まえがき

土師ダムでは、ダム湖の親水性をより高めるため平成元年よりダム湖活用環境整備事業を実施し、ダム湖周辺の環境整備を実施してきました。現在では、スポーツやイベントなどで多くの人々に利用されています。

生態湿地公園は、ダム堰堤から上流5.4kmの河川敷に約3haの広さに、高低差をつけた7つの池から形成されています。池の水は、沢水と上流約1.2kmから導水路により本川より引水しています。

生態湿地公園は、身近な自然環境の観察の場として提供しており、極力自然の力で自然環境の復元を図りその様子を観察していくため、特定の植物・魚等を入れるのをさけています。

また、完成後は、定期的に地元の小学校が自然観察会を開いており、今回は、生態湿地公園の活用状況及び自然環境の変化について発表します。

2. 現地調査

現地調査は、平成9年度～平成10年度に行っており、項目としては以下のとおりです。

項 目	春	夏	秋	冬	調 査 内 容
植物		○	○		植生調査、植生横断面調査、植物相調査
	○	○	○		
昆虫類		○	○		とんぼ類・・・生息種の行動調査 地表性甲虫類・・・ベイトトラップによる捕獲調査
	○	○	○		
魚類			○		サンプリング調査
		○	○		
鳥類					定点観測
	○	○	○	○	
底生動物					サンプリング調査
	○		○		

・調査時期については、上段は平成9年度、下段は平成10年度現地調査

3. 自然環境の変化

自然環境の変化を調査項目に従って述べると以下のとおりとなります。

(1) 植物

平成9年度調査では、優占種により22群落に区分されたのが、平成10年度調査では41群落と群落数が増えたことにより、植生の多様化が見られました。また、一年生草本群落から多年生草本群落という遷移の進行が確認された。

(2) 昆虫類

昆虫類については、とんぼ類・地表性甲虫類について調査を行いました。

とんぼ類については、平成9年度で7科18種、平成10年度では9科25種が確認され、湿地草地に生息する種の確認数も増えてきていることから、湿地としての環境が安定してきた傾向が見られました。

(3) 魚類

平成9年度では2目3科16種、平成10年では3目6科22種が確認された。

夏場の渇水により、影響を受ける池においては他の池に比べ確認種数が少なかった。

(4) 鳥類

平成10年度に、湿地周辺で確認された種は9目20科44種で、湿地で採餌・捕餌の利用状況が確認できた種は7種でした。

(5) 底生動物

平成10年度に、確認された種は12科40種で内34種は昆虫類で、トンボ類の幼虫は12種確認され、アカトンボ属については全ての池で確認されており定着していると思われます。

4. 土師ダム生態湿地公園の活用状況

前記のように、生態湿地公園では自然環境の変化を追跡調査していくための調査を行うとともに、その自然環境の遷移を、体験学習していく場として提供しています。

現在では、地元八千代町の小学生を対象に自然観察会を行っており開催状況は以下のとおりです。

開催年月日	参加人数	観察項目
H 9.10. 4	約30人	トンボ・鳥・魚類・水辺の植物の観察
H10. 1.12	約20人	植物の冬目・鳥の観察
H10. 7.14	約30人	ヤゴの採取
H11. 3.11	約20人	鳥の観察

自然観察会は、生態湿地公園とその周辺及び上流のキャンプ場などで行っており開催にあたっては専門の先生を招いて、観察にあたっての注意事項や種別の見分け方などの指導を受けて行っています。

5. おわりに

今後も自然観察会の場合として活用していただき、日常であり学ぶことが出来ない体験学習を行って欲しいと思います。

また今後も、生態湿地公園のモニタリング調査を行い、湿地生態系の復元・保全のための基礎資料として活用していきたいと思います。